

## 第5回愛媛県新長期計画策定会議 議事録

- 〔 議事 ・ アクションプログラム編最終案について 〕  
・ 計画の推進方策について

〔 日時：H23.12.12 15:00～16:30 〕

〔 場所：第一別館 11階 会議室 〕

### アクションプログラムについて

#### 【施策6 快適な労働環境の整備】

- ・ 指標の育児休暇取得率は、女性に限らず男性も入れてはどうか。

追加も含めて、検討させていただきたい。

男性のデータはあるのか。

指標については、国、県とも、目標を定めている計画はあり、その中で把握することはできている。ただし、毎年ではなく、5年、10年といったスパンでの目標が設定されている。

#### 【施策22 障害者が安心して暮らせる共生社会づくり】

- ・ 愛媛国体と全国障害者スポーツ大会は、施策の位置づけはあるものの、実際に取り組むときには、一体的に取り組んでいただきたい。

#### 【施策24 生涯を通じた心と体の健康づくり】

- ・ 自殺のことは、何か書いているのか。

主な取り組み「5 心の健康づくりの推進」で、その旨の記載をしている。

#### 【施策37 子ども・若者の健全育成】

- ・ いじめの問題の指標が、学校が1年間に把握できたいじめに対しての解消率となっているが、学校で把握できない部分がかかなりあると思うので、何らかの形で配慮ができないか。当該施策に限らず、見えない部分のところに、問題が潜んでいると思うので、何らかの形で配慮ができないか。

十分考慮して、取り組むということによいか。

(了承)

解消率が上がるということは、学校に相談すれば何とかなるといった信頼を増すということにもつながる。そういう意味での指標と考えれば、納得できる。

#### 【総括】

- ・ いただいた御意見に関しては、事務局で検討することとし、修正したものを策定会議として了承する。

### 計画の推進方策について

- ・ 特別枠は、今の時点でどの程度のものを考えているのか。

最終確定はまだ難しいが、一応の目安として、一般財源ベースで約10億円を示している。

- ・ 予算と連携させるのは、インセンティブを与えるという意味で非常に良い仕組み。部局を離れたタスクフォースを作るなど、組織の構成なども併せて検討していただきたい。

- この計画をどうやって県民に周知するのか。

県民への周知は、非常に重要。策定後には、県のあらゆる広報グッズ（「愛顔のえひめ」、広報番組、冊子等）を通じて、集中的に啓発を行うとともに、県のHPの目立つところにバナーを入れて周知するなど、あらゆる方法で県民に理解をしていただけるような取り組みを行ってまいりたい。

県庁の職員に周知徹底をしていただきたい。

早速、「愛顔のえひめ」の1月号（新年号）に概要を入れて周知したい。

知事の直接のメッセージというのも有効。「県の職員も関わって一丸となってやります。」というアピールをして欲しい。

1月の県民だよりには、この18施策（重点戦略分野）を載せるのか。

全部は出せない。映画の予告編的な打ち出しになるのかなと思っている。
- 重点戦略方針の見直し方のルールがあれば、教えていただきたい。

基本的には、毎年度、そのときの行政需要や成果指標の推進状況、県民ニーズなどを踏まえて、新たな視点で見直しを行ってまいりたい。
- 具体的な施策を検討するときには、専門家の意見を求めるような独立したワーキンググループが必要ではないか。

推進協議会の位置付けとしては、長期計画の4つの柱（産業、暮らし、人づくり、環境）のバランスを考えながら、それぞれの分野に造詣の深い学識経験者や有識者に参画いただきたいと考えており、十分な意見を頂戴しながら、重点戦略方針を作り上げてまいりたい。人数等の詳細については、先生方の意見を踏まえながら、検討してまいりたい。

（補足）各部で様々な計画を持っており、審議会、委員会を持っているので、専門性が必要な場合には、そこで意見を求める形になっていくのではないかと考えている。
- 推進体制で、挑戦、連携、創造というものは、この中のひとつひとつに入ってくるという感じでよろしいか。挑戦とは、あくまでも失敗がつき物だが、思い切った挑戦をしたことに対する評価を入れていただけたらと思う。
- 具体的な成果指標の数字を目的とするのではなく、どういう精神に則ったら数値が上がるかという観点で進めていただきたい。
- 魅力ある観光地づくりというのは、ずっと長い間、言ってきて、また重点戦略の中に入っているが、新しい長期計画以降に、同じ魅力ある観光地づくりを本質的にどう変えていくのか。どういうふうにステップを踏んで、新しい魅力ある観光地づくりをしていくかということを考えていかなければならない。
- 観光であれば、暮らしも人づくりも環境も関わってくるので、そこをどう連携していくかということも考えていかなければならない。